

調査速報

檜山海域スケトウダラ漁期中調査の結果について

平成16年12月22日
北海道立函館水産試験場

平成16年12月14～15日にかけて、稚内水試調査船北洋丸を用いて檜山沿岸域のスケトウダラ漁期中分布調査を実施しましたので、その結果についてお知らせします。なお、時化のため、予定していた延縄船団周辺の魚探調査、漁獲物調査、沖合域の海洋観測は実施できませんでした。

1. 魚探反応

今年の調査も昨年と同様、夜間檜山沿岸域を東西に航走して魚探反応を観測しました（図1）。その結果、

今年も熊石から江差にかけての沿岸域には、かなり強い魚群反応がみられましたが、漁期中調査が開始された平成14年、15年と比較すると海域全体の反応量はやや少なくなっていました（図2）。

今年は江差沖から乙部沖にかけて最も強い魚群反応がみられました。平成14年、15年は乙部沖から相沼沖禁漁区にかけてが最も反応が強かったことから、過去2ヶ年よりも魚群の分布の中心はやや南よりとなっていました（図2）。

魚群は、乙部沖、江差沖とも深度200～400mにかけて分布しており、とくに海底斜面上とその周辺部の深度200～250m付近には強い反応がみられました。平成15年では深度200m付近に強い反応がみられたことから、魚群の分布深度はやや深くなっていました（図4、5、6）。

2. 海洋観測結果

乙部沖の水温の鉛直分布を図3に示しました。スケトウダラの産卵場として好適と考えられる2～4の水温帯は、乙部沖では深度140～200mとなっており、昨年とほぼ同程度でした。なお、10月の漁期前調査時では深度200mで約3、深度250mで約2、昨年の漁期前調査時よりも水温が高かったのですが、12月になって100m以深の水温はほぼ昨年並みとなっています。

要約

- ・ 檜山海域の12月中旬における魚群反応量は平成15年同時期よりやや少ない。
- ・ 12月中旬における魚群反応の強い海域は、江差と乙部の中間ライン付近。なお、この魚群は今後産卵場の中心域（相沼沖）に移動していくと推測されます。
- ・ 魚群反応の強い深度は、夜間では海底斜面上とその周辺域の深度200～250m付近。
- ・ スケトウダラ分布層の水温は、ほぼ昨年並み。

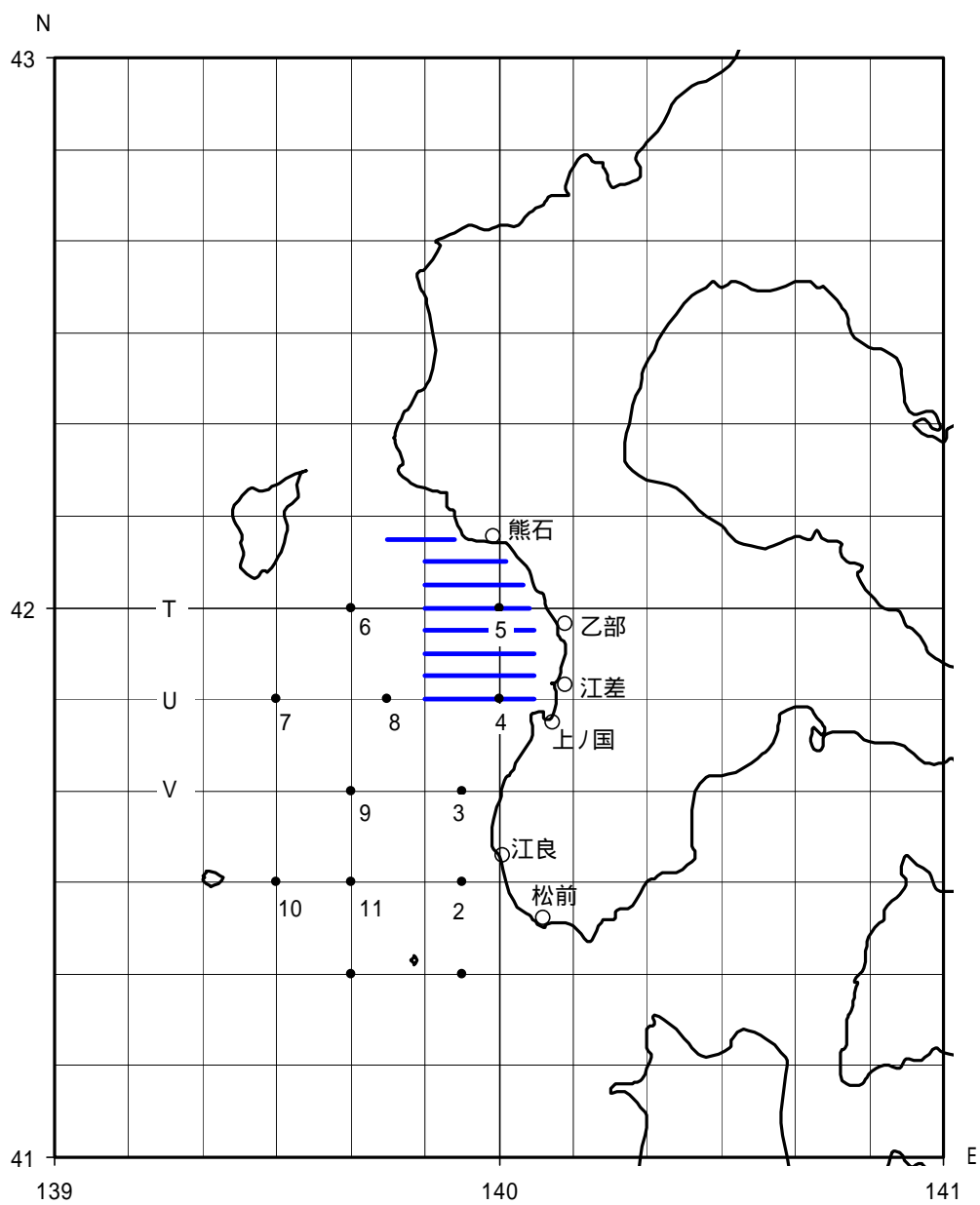


図1 スケトウダラ漁期中分布調査海域

平成 16 年 12 月 14 日

平成 15 年 12 月 1 日

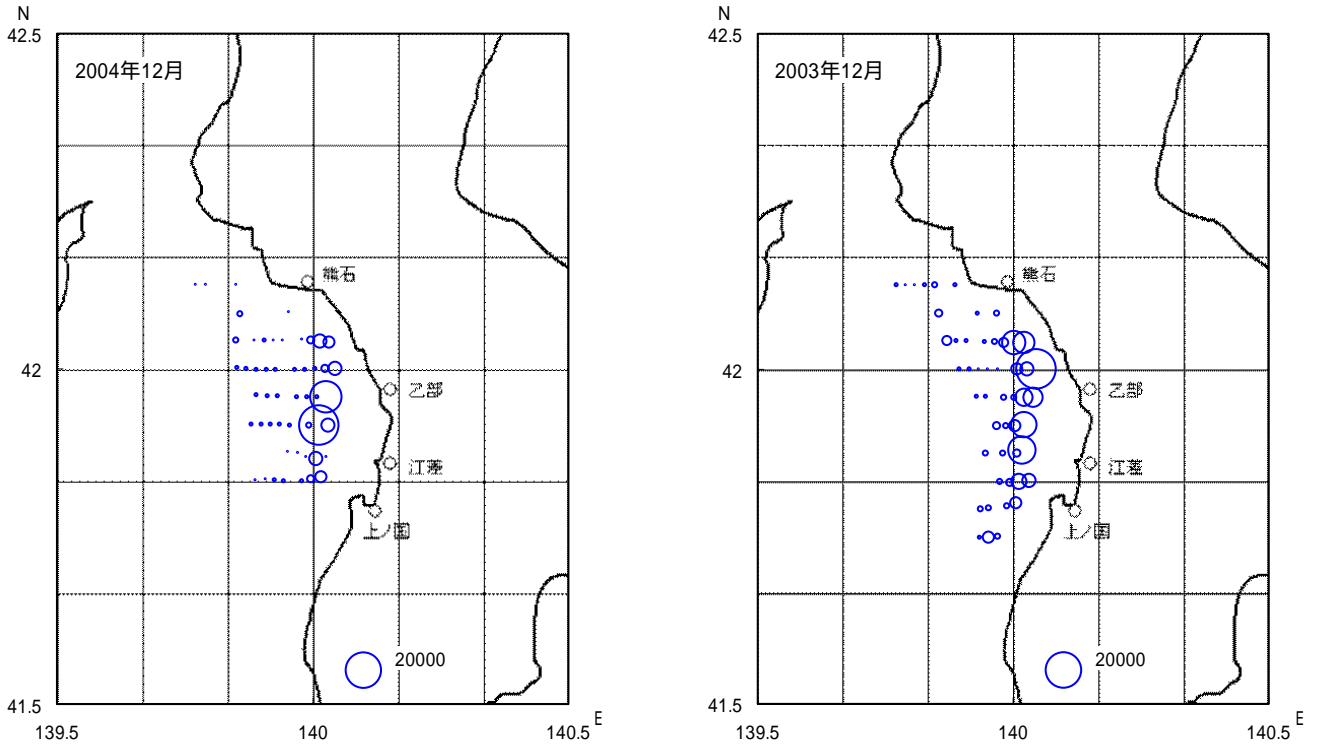


図 2 檜山沿岸域における魚探反応量

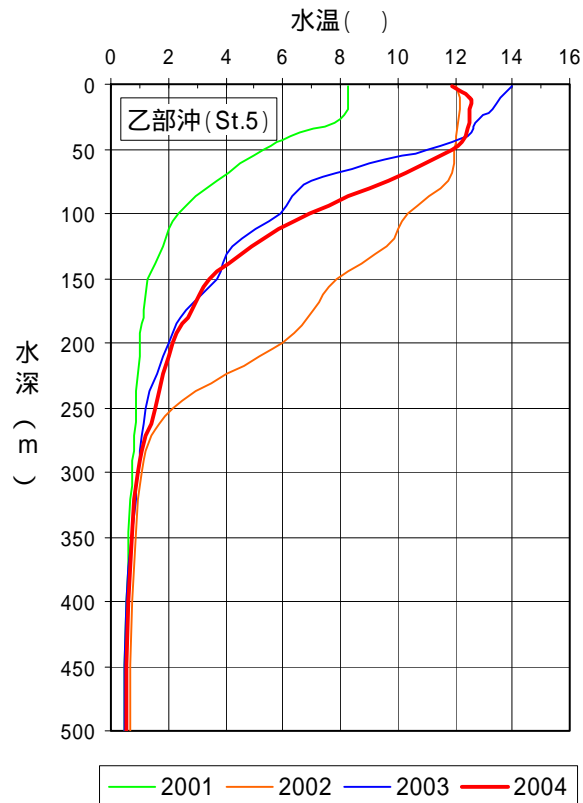


図 3 乙部沖 (St.5) の水温鉛直分布

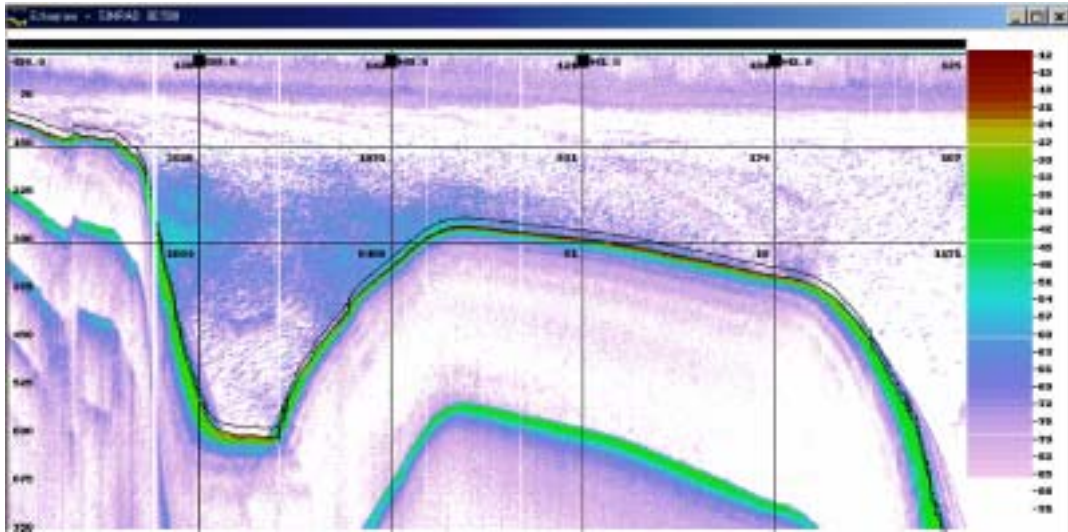


図4 相沼沖の魚探反応(図1のライン上)

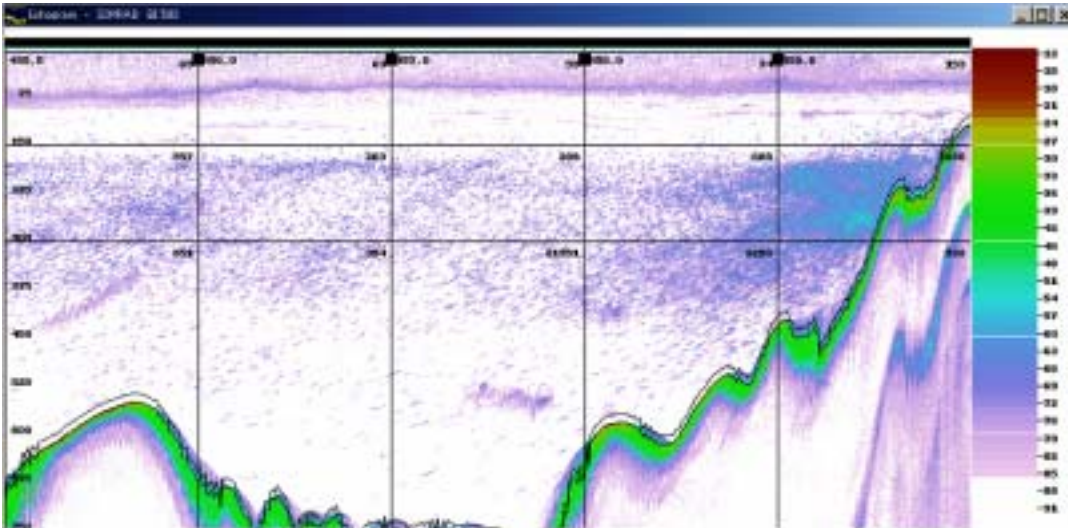


図5 乙部沖の魚探反応(図1のライン上)

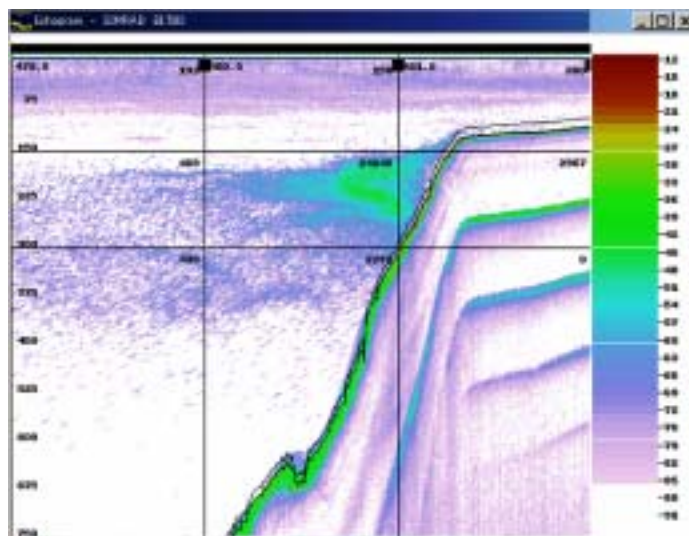


図6 江差沖の魚探反応(図1のライン上)